

第1回多摩市歯科口腔保健推進条例検討委員会 要点録

開催日時	令和5年10月25日（水）午後7時30分～午後9時
場 所	多摩市立健康センター2階 会議室2
出席者	平田 創一郎委員長、辻野 正久副委員長、田村 豊委員、秋間 善弘委員、近藤 直恵委員、岡 芳弘委員、権藤 義彦委員、安江 みゆき委員、小林 俊裕委員、林 久美子委員、有山 正和委員、石坂 多恵子委員 事務局 本多保健医療政策担当部長、金森健康推進課長、西本健康推進担当主査、増田、川俣、宿岩
欠席者	なし
傍聴者	3名
次 第	1 市長メッセージ 2 保健医療政策担当部長挨拶 3 委員自己紹介 4 委員長・副委員長の選出 5 事務局報告 6 条例の方向性についての協議
会議結果	
確認した事項等	
<ol style="list-style-type: none"> 1 市長メッセージ上映、部長挨拶、委員自己紹介の後、委員長・副委員長を選出 平田委員を委員長に、辻野委員を副委員長にそれぞれ選出した。 2 これまでの経過等、策定スケジュール、市民アンケートの結果について事務局から報告の後、市民アンケート結果に基づく論点シートにより、各委員の立場から歯科口腔保健に係る課題等について意見交換を行った。なお、会議時間中に条例の方向性の協議を行うことができなかつたため、条例の方向性については、次回会議で協議することとした。 3 令和5年度は、今後2回の開催を予定。次回は11月29日(水) 	
主な内容・意見	
<p>●委員自己紹介・・・資料1</p> <p>委員：人間の体を扱うのはだいたい医科だが、歯だけは歯科である。実際に人が年老いていく中で、医科、歯科含めてこれからの高齢化社会をどう乗り切っていくのかというのは、医科も歯科も共通の関心を持っている。</p> <p>委員：幼稚園では、歯科健診を実施し、結果を確認して保護者にフォローを行っているが、毎年同じところが治ってないという人がいる。幼稚園だけで一生懸命歯みがきをしてもだめであり、家庭でも同じ習慣を持っていただくことが重要である。どうやって習慣をつけるかが重要であり、そのことを子どもたちに伝えていきたい。</p> <p>委員：保育園は年一回の歯科健診が義務付けられており、各園で実施している。保育園ができることを考えたときに、乳幼児期によく噛むということが重要であると考えている。多摩市においては、どの保育園でも給食に力を入れており、和食中心にしたり、根菜類を多くしたりしている。</p>	

委員：小学校では、毎年6月までに定期健康診断で歯科健診を実施している。また、多摩市の場合はブラッシング指導を小学3年生、4年生に実施している。また、就学時健診でも歯科健診を実施している。小学校時代の経験、習慣というのは非常に大きな要素を持つと考えている。

委員：中学校では、市内9校中、8校が東京都学校歯科医会から毎年歯科優良校として認定されている。また、中学校1年生でブラッシング指導を実施している。

委員：障がい者は卒業して通所に移った途端、通院しないと受診の機会がなくなってしまう。多摩市の障がい児(者)等歯科診療事業「ふれあい」に行かないと歯科とつながるチャンスがない。歯科疾患が進行した場合、治療は全身麻酔になってしまう。早期に予防をして、歯科健診につなげたい。

委員：日々口腔の重要度が増している。いくつになってもおいしくものが食べられるということが重要であり、歯はとても重要な要素であると感じている。

委員：保健所は支援者への研修、普及啓発事業、障がい施設への支援事業に取り組んでいる。

委員：先日歯科検診を受診したところ、当初半年に1回の間隔であったものが、3か月に1回と言われ、そんなに早く進行するものなのかと驚いている。

●論点シートによる意見交換・・・資料7別紙

<幼児期>

委員：年少のときに歯が悪い子がそのまま年中、年長と進級していく。フィードバックをしている中で、かかりつけ医は歯が痛いときには行くかもしれないが、そうではなく、日々歯科医院に通う習慣が必要と考えている。

委員：外国籍の子どもの歯が悪い傾向にあり、フィードバックをしても治療しないままの方がいる。歯科に通院いただくと治るが、またどこか悪くなる。定期的に診ることができなければ改善は難しい。今回のアンケートを回答している方は、日本人で歯に関心がある方が多いであろうと考えており、実態としては、もう少し数値が悪いかもしれない。

委員：日頃からの予防行動について、危険予定トレーニングなどを含めて、条例に盛り込めれば良いのではないかと。条例のそのあとが大切だと考えているので、策定後の施策も考えながら策定していきたい。

委員長：ホームケアとコミュニティケア、プロフェッショナルケアの3つが揃って初めて歯科保健といわれている。

委員：園の歯科健診は短い時間でみていくため、精密なものではなく、かかりつけ歯科医での定期健診を勧めている。

委員：保育園の保護者は仕事をしているので、忙しい。問題がなければ連れて行かないであろうし、自分自身も理解できる。

委員：駅、児童館など乳幼児期の親が良くみるところへのポスター掲示、3歳児健診時に食事・歯みがき指導を必須とすることなどが有効だと考える。

委員長：周知については力を入れていかなければならないと思っている。また、給食に力をいれて、根菜をよく取り入れているとのことで口腔機能発達に力を入れていると感じた。口腔機能発達不全症というものがあり、子どもの口腔機能の発達が悪いと障害として残ってしまう。

委員：小学校はブラッシング指導を強制的に行っているが、一番は保護者が連れていくことなので、保護者が連れて行っていないといけないことが大きいのではないかとと思う。

委員：お医者さんは時間がかかるというイメージがある。また、歯医者さんはお金がかかるなど

により、受診につながらないのではないかと思う。

委員：歯周病と様々な病気の関連性については、もっと子どもを通じて保護者を啓発するということが大事ではないかと思う。

委員：知識的、時間的、経済的問題が大きな課題ではないかと思う。

委員：子どもは、声かけだけだと歯みがきしてくれず、怒りながら歯みがきをしたりしている。親がしっかりと歯みがきの大切さを伝えることが大切であると思う。

委員：小学生は自分から歯みがきをするが、小さい子は親だけでは聞いてくれない。親以外から伝えてくれると助かる。

委員長：核家族化が進む中で、家族で一緒にご飯を食べなくなっている。みんなで揃ってやるという意味ではホームケアが必要だが、集団でコミュニティケアを実施していくことが重要であると感じた。

委員：放課後の部活動や塾等が軸となっており、むし歯になって痛くならなければ通院しないことが多い。

委員：歯医者に行くこと自体が嫌いと思っている人もいる。また、痛いというトラウマもあるのではないかと思う。

委員：定期的に義務化しない限り、中高生が通院することは難しいのではないかと思う。

委員長：歯医者嫌いはい小中学校だけではなく成人期もそうかもしれない。

副委員長：まず乳歯についてはむし歯になりやすい。また、唾液が出ないとむし歯になりやすい。痛みが無いので多発する。学校の健診はあくまでもスクリーニングである。学校医も、むし歯かわからない子は要注意とし、歯科医院への受診勧奨をしている。中学生は親離れが始まり、自分で決めたい時期であり、外で色々なものを食べる状況である。その中では、正しい知識の周知啓発が大切であり、条例があると啓発の後押しになると考えている。

委員：中高生の女子はホワイトニングなどに関心があり、美容面で歯への意識は高い。

<成人期>

委員：糖尿病の合併症について色々と言われているが、歯周病は大きく関係する。全身の健康が歯に出ることもある。また、歯周病になると誤嚥性肺炎の原因にもなる。健康でいることは歯科口腔に大きな相関性がある。

委員：心臓が悪くならないようにといった関心はあるが、歯の重要性への意識が低い人が多いように思う。健康寿命を守るために歯のケアが大切だということを盛り込むべき。

委員長：セルフケアだけでは歯科疾患の予防はできないので、プロフェッショナルケアは必須である。

<高齢期>

委員：高齢期は二極化が進んでいると思う。若い時から歯をケアしてきた人については、認知症だが昔から歯を磨く習慣がしっかりあり、肺炎にもならない方もいる。一方、関心がなく炎症を起こしている人がいる。そういった事例をシンポジウムなどで発信することができたら良いのではないかと思う。嚥下に関しては、嚥下機能評価を在宅でできると知らない方が多い。義務的に巡回できれば周知できると思う。

委員：嚥下機能の評価が在宅でできることを知らない方が多いので、周知をしていきたいと思っている。その他にも、色んなことが在宅でできることや費用もそんなにかからないことを周知していきたい。

委員：全般的な話として、関連のある疾患の認識が全くなかった。歯周病についてよく知らない人が多いのではないかと思う。なので、関連のある疾患の認識がないのかと思う。

委員：かかりつけ歯科医とあるが、歯科医院を調べるが、良い評価は見ないのでよくわからない。
自分の経験上、最近の歯医者痛くないが、口をずっと開けているのがつらいので行きたくないと感じる。

委員：医科のように歯科にもセカンドオピニオンなどあればいいと思う。

<障がい者>

委員：アンケートの回収率が低くて残念であった。

委員：昔は4・5人でおさえないと予防注射ができなかったが、最近は半分の時間で終わるようになった。新型コロナの影響でたくさん接種する機会があったので慣れたのではないかと思う。歯科診療についても、だんだん慣れて治療ができるようになっていこうと思う。

委員：入所施設では訪問診療を実施している。もしかしたらだが、通所の方でも集団であればできるのかもしれない。通所施設でも訪問歯科診療が受けられる仕組みがあれば良いと思う。

委員長：障がい者歯科については、法律でも条文が別立てにされるほど意識されているが、実際のところは最近始まったばかりである。

<全体を通して>

委員：ステージや対象者ごとのツールがあり、必要な関係者と連携しなければつながらないと思う。

委員：食中毒の啓発で蛍光物質を使った手洗いの動画がテレビ局に注目された事例がある。テーマを絞って動画を活用すれば良いのではないかと思う。